NEXT50 鶴ケ谷の未来に向けて

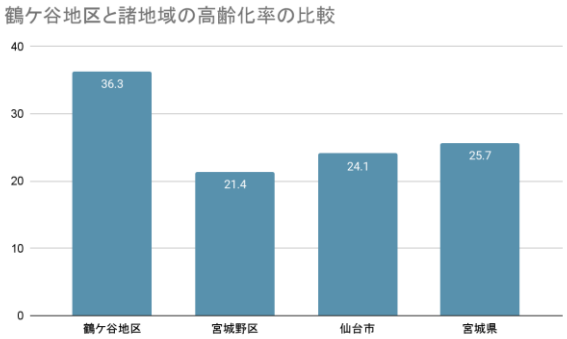
宮城県仙台第三高等学校　２班

本研究は仙台第三高等学校が位置する鶴ケ谷地域において少子高齢化が問題となっていることを知ったことをきっかけとし、鶴ケ谷地域を少子高齢化が進んでもすべての世代の人が楽しむことができる地域にすることを目的として行った。結果として、地域との関わりを作り、目的の第一歩を踏み出すことはできたが依然として小規模な活動であり、今後も同じ目的の下活動をつなぎ、大きな活動へ近づけていくことが必要である。

キーワード：鶴ケ谷、少子高齢、地域活性

Ⅰ．はじめに

私達は鶴ケ谷元気会という地域団体から話を聞かせていただき、鶴ケ谷地域で少子高齢化が大きな問題となっていることを知った。



鶴ケ谷地区の高齢化率は約３６％であり、宮城県の高齢化率が約２６％、宮城野区の高齢化率が約２１％であるため、やはり問題にすべき数値である。しかしながら、調査を進めていくにつれて少子高齢化の解決に対して高校生が行うことのできることが殆どないと感じた。そのため別の角度から地域を活性化させる必要があった。鶴ケ谷の現状として、商店街の縮小や中学生や高校生が遊ぶことのできる施設が少ない。そこで問題自体を解決するのではなく少子高齢化がすすんでもすべての世代の人が楽しむことができる地域にすることを目的とし、探究活動を行うことにした。鶴ケ谷元気会は、ウォーキングマップの作成や携帯教室などご高齢の方のための活動を多く行っているため、その上に若い世代の学生が楽しむことのできる要素を加えていくことで鶴ケ谷をより良い地域にしていこうと考えた。

Ⅱ．研究方法

ⅰ）鶴ケ谷地域の良さと課題について

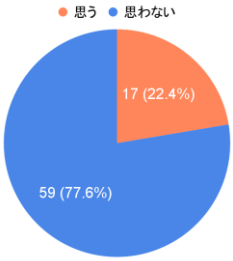
私達の班には鶴ヶ谷地域に住んでいる人はおらず、より良い地域にするためにはまず私達がその良さと課題を知る必要があると考えた。そこで鶴ケ谷元気会の協力のもとワークショップを開催した。私達探求２班がファシリテーターとして参加し、鶴ケ谷元気会に所属している方々、東北学院大学の学生の方々、鶴ケ谷中学校の生徒会の方々に参加していただいた。

ⅱ）新しいウォーキングマップの作成について

鶴ケ谷元気会が作成していたウォーキングマップの新年度版を発行する際に私達の意見を取り入れても良いと仰っていいただけたため、前年度版の課題やより良くできる部分を話し合った。

ⅲ）スタンプラリーについて

私達は若い世代の人々が楽しむことのできる街にするためにに鶴ケ谷地域内でスタンプラリーを行いたいと考えた。仙台第三高等学校内で「鶴ケ谷地域には魅力的な施設があると思うか。」というアンケートを実施したところ以下のような結果になった。



ワークショップでは鶴ケ谷に住む方々から多くの魅力を聞かせていただいたため県内各地から生徒が来ている仙台三高では鶴ケ谷地域の魅力を知っている人は少ないように感じられる。そのため、まず三高生に鶴ヶ谷について知って貰う必要があると考えた。スタンプラリーで楽しみながら鶴ケ谷地域内を回ることで魅力を知ってもらえると考えた。

Ⅲ.探究内容

研究方法（ｉ）について

ワークショップは以下の２つのテーマに沿って行われた。

テーマ①は鶴ケ谷団地の魅力のあるスポットを挙げる。

テーマ②は鶴ケ谷地域内でスタンプラリーを実施することを想定して、どのようにすれば実施できるかを考える。写真１はワークショップの内容をまとめたものである。

テーマ①で挙げられたスポットは次のようである。

店舗は麺屋くまがい、アバイン、つつみ庵、なごみ。

自然は大堤沼、木蓮、ひょうたん池、桜道、外人墓地などであった。

仙台第三高等学校の生徒にとって聞き馴染みの深いスポットもあったが、それ以上に登下校のみで鶴ヶ谷地域を通る人では気づくことのできない部分を挙げていただけたためとても勉強になった。

テーマ②で挙げられたことは次のようである。

ツールは御朱印帳などの紙媒体や携帯電話。コースは木蓮や桜を見ることができるコース、フォトスポットを周るコース、地域の行事や高齢者施設を含んだコース等が挙げられた。

種類は謎解きスタンプラリー鶴ケ谷団地に住む方向けと観光者向けで種類を分けるということも考えられた。また、割引券や商品券などの特典を加えたり、地域ごとにスタンプラリーの達成人数を競うことができるようにすることで、スタンプラリーへの参加を促すことができるのではないかという案もでた。

研究方法（ⅱ）について

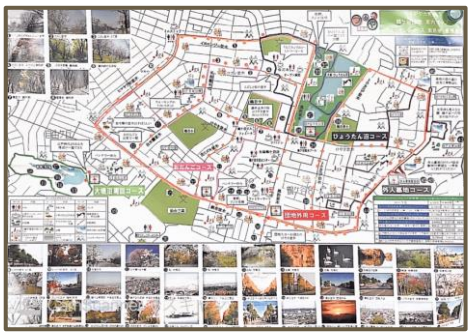


写真１

写真１は鶴谷元気会の方々が作成した前年度版のウォーキングマップである。私たちは話し合いの中で、前年度版のウォーキングマップの課題は、どこをおすすめしたいのかが分かりづらい、マークの数が多くて見づらいの２点だと考えた。

そこでこれらの課題を解決するために、考えた改善案は次のようである

・QR コードを用いた詳しい情報の発信

・並木の種類を色分け

・写真の厳選

・曲がる場所の目印を表示

これらを踏まえて、私達は簡易的な変更点を示したマップを作成し、鶴谷元気会に提出した。

その後実際に印刷された新年度版のウォーキングマップは次の写真３である

写真３

私達の意見を取り入れてくださった部分もあったのだが、私達がどういったところを課題と感じ、それらをどういった方向で改善しようとしたのかという部分がうまく伝わっていなかったと感じた。情報の省略を行うことができた部分もあるが、その一方で他の物によってかえって見づらくなっていしまった部分もあったため更に改良の余地はあると感じた。

研究方法（ⅲ）について

ワークショップで出た意見を基に実際に行うスタンプラリーの形式を考えた。高校生向けであ

るため、ツールは携帯電話で「行うことにした。仙台第三高等学校の生徒に鶴ケ谷地域にどんな場所があるかを知ってもらうために、鶴ケ谷地域の飲食店や小売店を周ってもらい、それらに関する問題を問いてもらうことが最も良いと考えた。そこで、協力していただける店舗を探すことにした。様々な店舗に電話をかけさせていただく中で、断れることもあり精神的につらい作業だった。しかし、話を詳しく聞いてみたいと言ってくださるところもあり、いくつかの店舗を訪れて、話をさせていただけた。一時間以上にわたって話を行うこともあり、難しいことも多々あったが話をしていく中で参加して頂ける店舗も見つかった。次に挙げるのは参加していただいた店舗である。（敬称略）

・ひまわり手芸店
・Pensee
・麺屋くまがい
・GOCHI-DELI
・花しょう
・なご味
・白牡丹

店の方々と話し合いその店に合った問題を考えそれを記したチラシを貼っていただきスタンプラリーを実施することになった。

５月３日に実施したのだがインフルエンザの流行と重なり参加人数は４人だった。延期することも考えられたが、多くの店に協力していただいていたため、簡単に日程変更を行うことができなかった。そういった中での実施だったが次のような感想をいただいた。

・初めて知るお店、絶景スポットも多かったので、参加できて良かった（１年女子）
・質問にただ答えるだけじゃなくて、お店の方と話す機会ができる良い企画だなと感じた（３年女子）

Ⅳ.考察

ウォーキングマップの作成でうまく鶴ケ谷元気会の方々に私達の考えをうまく伝えることができなかった理由は資料を作る際に自分がどこを一番伝えたいのかというところを強調して作ることができなかったことだと考えられる。いくつかの変更点を同じ資料に乗せていたため、１番伝えたい部分を読み取りづらい内容となってしまっていたと考える。

スタンプラリーの実施では、参加人数は少ないものとなったがスタンプラリーによって高校生と地域の方々が交流を持つことができることがわかった。また仙台第三高等学校と鶴ケ谷地域がこれから協力していくに当たって、最初の繋がっ理を作ることができたと考える。

スタンプラリー実施した際のかアダイ点としては、各店舗の間隔が広い、所要時間が長いなどが考えられ、前者についてはコースを２、３個に分ける。後者については自転車の使用や、事前に所要時間を伝えることで改善に向かっていくと考える。

Ⅴ.まとめ

私達は、高齢者向けの携帯電話教室や鶴ケ谷地域に関するチラシ配りなどもスタンプラリーとは別に行いたいと考えていたが、時間的な問題もあり、実施することができなかった。私達はこの探究活動を通して大人と話し合う機会を多く得られた。世代による考えの違いや意見をする難しさを感じる場面も多く体験した。しかし、班の全員で協力して乗り越えていけたことはとても成長に繋がったと考える。まだまだ課題は残っているものの、仙台第三高等学校が地域の活性化に居応力できるのは間違いないと感じた。私達はスタンプラリーを行ったが他の様々な視点から地域に貢献することができる。

１度の活動で課題が大きく改善されるという事は難しい分野であるが、失敗を繰り返しながらでも活動していくことでより良い地域を作っていくことができると考える。

参考文献

統計局ホームページ　https://www.stat.go.jp/

仙台市鶴ケ谷第一市営住宅団地再整備事業における地域コミュニティーの活性化の取り組みについて
http://www.thr.mlit.go.jp/Bumon/B00097/k00360/happyoukai/H22/ronbun/6-23.pdf